



種ね 權ぐん 兵へ 衛ゑ

服部應賀著

論ろん 前まへ



僅紫存

定價三錢五リ



官許明治七年三月廿九日

夫培養の草木菜瓜の苗と榮育たる
 のとありは花と實の色ともあり味とも
 るるありは殊小大や一まき
 畑物の食ふふえに其あや
 一小時あり其時の若芽と
 りし此時を怠れば益あり
 人も學文するの道理ふら
 一其まらぶ小時あり其時の
 如き小あり老るると老學の
 古人をさして其時を怠ると童の
 成人て悔あると又教導と耕作との其則の
 ひとしさを迷て學社の繁茂を祈るふと我



權兵衛種蒔論

服部應賀著

方今開明の善政敷多行はせらるる中不専ら學校と
 御設營あるの國人最大の幸福あるがちへ不遂不邊土の
 官士庶人まで自費の學社と競立たることを方代強國の
 基ひ總明俊傑の苗を生じて佳實を得種蒔ともいふ
 可欽さしむば茲不或都會の村長自力を奮發して千
 町の荒野不續く市中の古院と學社不ひらりとめて

匹夫野人の童男童女鰥寡孤獨の習學所と成るがゆへ
近郷の福者をとりめ其日稼の者までも此大業を
悦びて助力の金貨と投つけしむる忽ち落成の上
或日投金の者へ村長より奇特と報ふ賀宴を
きこければ貴賤美豚の袖を翻して大殿小群會
たるを見て教者の某上坐の村長の前へいで貴長
の大業貫通して今日の賑ひ斯のごとくさく夫小
つき當所の大家種蒔權兵衛ある者ハ近郷一の
福農ふてありるがうわる大業を見て今日まで一

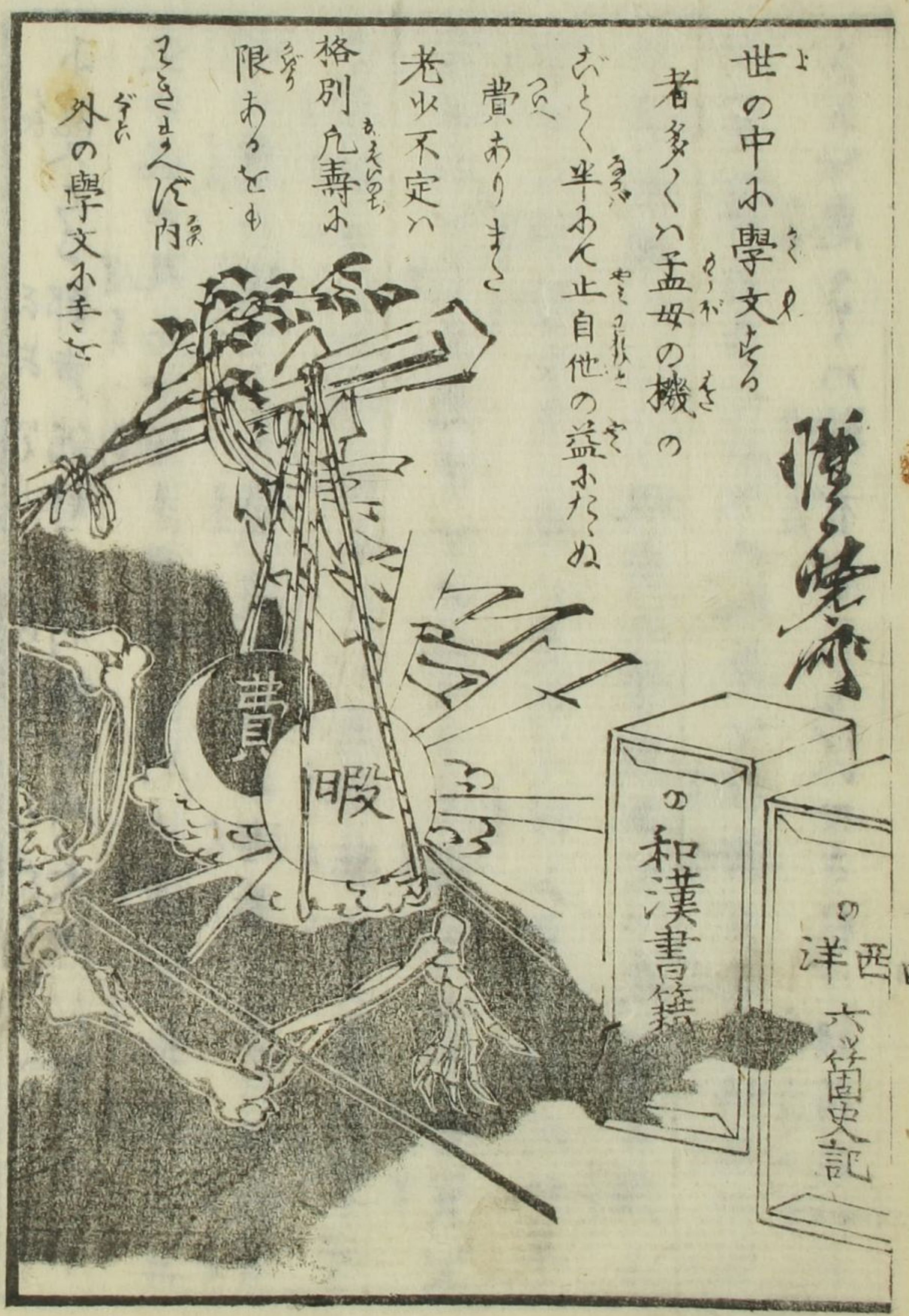
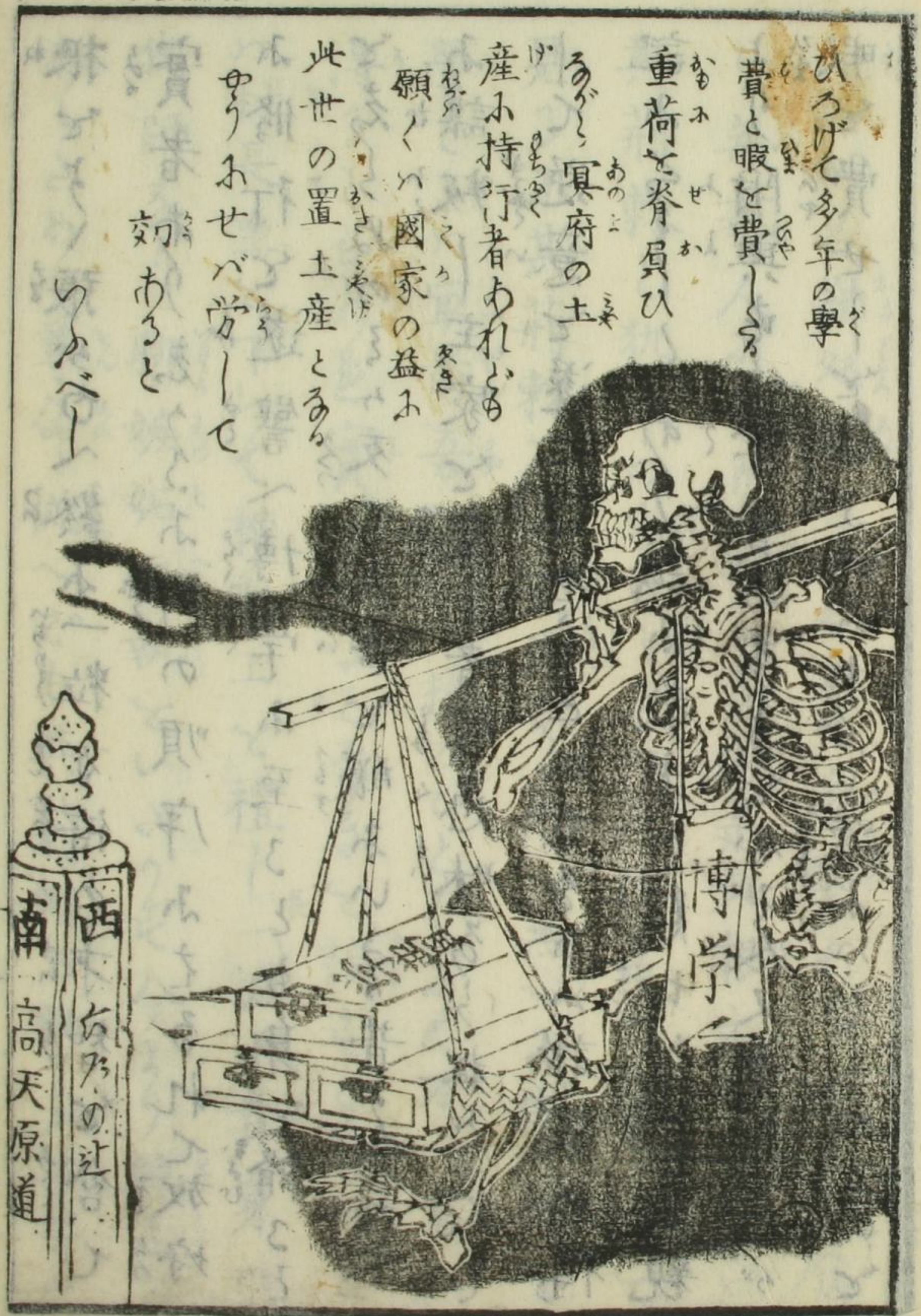
錢の助力もこまきもへ斯貧民も連面する坐中へ
呼よせて守錢奴の耻名と冠らせとこと述べは長
其儀然べうらびをも學文の第一ハ已と慎る偏執の
心まうらゑむるの教るれば渠が出金あるとて聊恨ま
渠ハ農家るがうら義理ふあつるく殊小耕作ふ委
しけむる毎年の收納も他の一倍と得とむつて
種蒔とも俗称をれば吾菜菓穀の三品の種を渠ふ
託して此地ふ蒔せ土性を試とければ今日此席
へ来と約せばかゝるうら過言あるまじといまむる

折く大福長者と呼ぶても千早ふふ着て種
蒔権兵工大勢の美麗の中にも恥らひて上坐へ
行ハ村長會釈してりふやう一にさく尊来を乞
いの外あるは吾こくふ三品の種ありと渡し夫と
此荒地ふ蒔て土性と試られよと頼けと取あへむ
権兵工荒地へ出荆棘瓦石の中ともいとるは無
心ふ蒔ちりけとばあさりの群雀鳥も来りて
啄と大勢の童是を見付てあれよ権兵工殿が蒔し
種と鳥が剔る誰かへうとと人ホホと追ふと見て村

長惆しりち権兵工元の坐ふ戻りてりふかか
小まうせ種の蒔しが生るとぬい此學社と見て知
べし吾耕作小倥偬し外用あるが暇多くと立退て
お止て司い不作法ありをも田畑を作ふ先其地
の荆棘と刈瓦石と除き耨耕して種を蒔培養し
て雑草を拔ざれば繁茂して實らぬものと今其許が
蒔と見るふ一畝の穿ゆるく芒々たる草の中へ種を
蒔てりいりぐ繁系茂の秋あらんちりる小生る生ぬい
此學社と見て知れとい鹿暴あり吾微力と抽で

此學社を營ぐがゆへ貧夫賤婦ふいころまを私糧の
りちを助力せし有志の面々此坐ふあはる農事
ふ委き其許の意趣と的面ふ聞くと敦園らしく
迷けしは權兵工臆る貞もあく恭然として再
び坐し一雅丈吾業の耕作ふ順序みまを述て吾を
責が吾ハ又此學社ふ順序みまを諭ん為粗暴ふ
種を時て見せし其意趣いまごさくらば語るべし
抑田畑と耕して佳實を得も學社と建て才能の人と
得も其手段の同一あるゆへ先學社を營むふ其地

ふ蔓ぐる鄭声淫肆の荆棘と刈大道に嚮ぐ不
正の品の尾石を除き男女區別の席と耨耕し無
心の童の種として繁茂の苗ふ培養しる唯教者
の丹誠而已也やもよむは悪郎無智の童と欺て所
持の品と乞又悪才とめぐるし宿所より金貨と
取せて酒食とあり或は悪所へ伴ふあり是則執草
あり近頃 政府の學校おいては是等と儼く
御穿鑿ありて三人の執草と拔捨万生の佳苗ふ害
みまを惠する難有とあらばやされば諸苗修行の



根ねをよく張はりがゆへ終つひふ一粒いちりゅう万倍まんばいの才智さいちを合あて
實み者ものありえりるふ件けんの順序しゆじゆふえりて放はな埒らち
ふ修行しゆぎやうと遂つい譬たとへへ博學はくがくふ至いたるとも身みと脩しゆると
とえりぬのそり反さかて大害たいがいを釀醸ふいさる昔むかしより天下てんか
ふ謀叛むはん一ひと主家しゆけと望のぞ一ひと者もの皆愚昧ぐまいありぬと一人ひとりと
して逆意ぎやくいと遂ついて誅ちせらぬ者ものるきし諸家しよけの傳でん
記きふくくあり誠まことふ教者きやうしやの懇切こんせつと思おもひ又親おや
より附與ふよたる學費がくひの多おほきをかぞ人ひと又永年えいねん己おのれが
暇ひまを費つひせしと顧くわんる時ときの中なかく踈あうそくふハナラぬりのと

唯ただ一心いっしんの納処なかつち悪わるき而已のみふて多おほ藝げいありて世よふ廢すく
り無藝むげい人ひとふ劣せうりの少すくくは是こゝ此根元こゝねもとを尋たづむ
其荆棘きけいしきと犢草とくそうの害がいありむや近頃きんぎん當所たうじよの景況けいけいと
見みるふ其荆棘きけいしき瓦石ゐしやく充満ちゆうまんたる中なかへ無心むしんふ學社がくしゃを
營えいるときは軍前ぐんぜん吾時ごとき一ひと種しゆのごくあり万まん一いち苗ぼハ
得えるともあは實じつとるると論ろんとと答こたけを
バ村長むらぢやう坐まと下くだつて權兵衛ごんべゑと禮らい一ひと誠まことふ貴身きみの
我師われしあり聊ちやう嫉妬しやくと偏執へんせつといぶる今いまより踈志そしと
あらしめて尊命そんめい従したがへども其荆棘きけいしきふ譬たとへふ渠等ちらうの

永年泰平の余澤を甘んじて身も染るる生活
みれば今更刈の志あるべしや一ゴハ思ひもよしく
無物躰も當今 上も旧習の弊を省れて永
代堅固の國益を慮らせりかかへ高祿の大家も厚
天意を奉戴し多ハ警飾も放て單歩の御身とある
士族も既も庶人も入と渠等是と知るが改業せ
ぬい患ありさいり吾も貧民とせりめ其教養藝
人等が生活の為此千町の荒地を開墾して其夫
籍と新編いふととへバ一ツハ莫太の御に施ふて

上の國家の大益下の庶人の廣益殊も高の亦ふ
て農のえられ無能無才の者の農も歸されば未代
安し國土も害にら藝の知らざるも志るんをさして
自改業の力あき者の其夫籍も入る人此學社の上
田也今般 政府も於て家祿奉還の多人へ山林諸
地とも畧賈を以て御拂下の命ありし誠も肉親の
子と思ふが如き深慈の御配慮あるところと語るが
大殿と見せしせば始に衆人權兵士の行躰を見て謗
て大声も笑ひけるが今大殿水で打とるおとくも

静しずかり一其末坐しんまざより柔弱じやくじやくの若者わかものよりいひて權兵衛ごんべゑの
 前まへ小述せうじゆつるや歌「私わたくしの御當所ごとうじよ小住せむい歌舞かぶまき伎者ぎしや小候せうこうが同
 業ごうの者もの學校がくこうへ獻金けんぎんと致いたせしこととき私わたくしも冥加めいがの為ため
 御當所ごとうじよへ上金じやうぎんといとさんと既すで小懐中こくわいちゆういせし處ところ只今ただいま貴
 君きみの御教解ごきやうかいと承うけたまはり恐縮おそそく肝顔かんげん仕つかる誠まこと小仰おほほのごとく私わたくしふ
 ぜいの者ものの正學せいがくの妨さまたげ也なりへ學校がくこうの荆棘けいせきとハ宜よろる御譬ごへい
 おそれるさことバ鄭声ていせいの淫えんふしと雅樂ががくを乱みだれと古人こじんも
 いへり尤なほ此藝このぎ昔むかしの質朴しやくはく小て芝しばの上うへ小て今いまの豆蔵まめぞうのおと
 く小手業てのわざをてして投錢なげせんと項かたきが愚民ぐみんを論ごんを勸善こんぜん

懲惡ちやうあくの道みちもちゝとて免許めんきよと蒙まかり座ざと建興けんきやう行まゐふ及および
 一いが次つぎ才さいくく小奢おごり又また文作ぶんさくも淫事えんじ小流ながて今いまハ勸すすめ
 懲ちやうの二字にじハ上下じやうげして懲善ちやうぜん勸惡こんあくのいろめきあり志こころし
 見物けんぶつもとく風俗ふうぞくの乱みだりきと好このめがりりやど制禁せいぎんをいれ
 ららるるも則すなはちちをかりまらら此藝このぎあり先般せんぱん復古ふこの御沙汰ごさたも
 ああららば我われ小てこ昔むかしのおとく芝しばの上うへ小て質朴しやくはくの手業てのわざも
 けけここバ正學せいがくの妨さまたげもあるまけけととそれそれももささらら日ひががららは
 奢おごり小移うつれれが私わたくしのたげげ藝ぎ人のひと魁かゝりり真まこと以もつてのた元化げんげ小上金じやうぎんよりも
 正ただ小學校がくこうの御為ごためを思おもひて親讓おやごの業ごうを廢やめし且かつ是こゝろはは農のう

業の辛苦も志し、いんく 不い 珍膳ちんぜん と食飽しょくぱう 織績おりしほ の手業も志し、
 らび、い 不い 賤けん を身み と美服びふく を包つつ まて、い 放逸ほういつ を世よ とおろりとする
 その咎とが を報むか ふとめ、い 一心決定いっしんけつぎょう して家族かぞ 門弟もんてい のりろとも不耕ふこう
 作な り、い 暑寒しよかん と厭いと び、い 泥脚どろあし を身み と働とら ぎ、又また 蠶養さんよう の業わざ を
 仕習しりょう へ子々孫々こゝろこゝろ 安泰あんたい の正業しやうぎやう を務つと げ、い 何卒なんぞ 開懇かいこん の
 夫籍ふせき のろり人ひと 御加入ごか 願奉ねんほう すと詞ことば を一ひと く述の べけし

後号一冊

種時權兵上群集の親子小著とともぶさ
 身と備ふことと論を各
 早々後元

權兵衛種時論前号終

此服部應賀新著作表題

當世利口娘 <small>二号</small>	虫類大議論上下	日本女教師
<small>正札</small> 智恵の秤 <small>三号</small>	權兵衛種時論	洋学古切雀
新製兎美断語 <small>同二号</small>	太郎兵衛水掛論	近世のされ墓
天上大珍事 <small>同三号</small>	孫兵衛活計論	放言深山鳥
金庫三代記 <small>全三冊</small>	市の虎狩	みそとて全男
驕人沙のう篋	ニヤアチウ談	和談三才圖笑 <small>全三冊</small>
東京花毛拔 <small>五冊</small>	畑水練	豊年五穀祭 <small>三</small>
青樓半化通 <small>全三冊</small>	轉ぬ前の杖	大鉦託新文鬼談 <small>三</small>

010190524839

小社說中發兌書林

小傳馬町三丁目

山崎屋清七

大傳馬町三丁目

丸屋正五郎

東神田須田町

高木和助

神田通新石町

紀伊國屋徳藏

人形町通新象物町

上州屋重藏

京濱町三丁目五番地

星野松藏

東西國元町五番地

鈴木勘二郎

大門通浪花町

鶴屋喜右衛門